

# クローバーつうしん

CLOVER TIMES



2024年1月1日 第63号

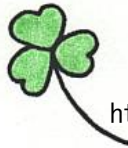
公益財団法人 金森和心会

クローバー子供図書館 / 発行

〒963-8851 郡山市開成6-346-1

TEL/FAX 024-932-2118

<http://www.k-washinkai.or.jp/clover/clover.html>



## 「娘との時間」

針生ヶ丘病院 事務部長 吉田光生

明けましておめでとうございます。

今年も、新型コロナウイルス感染症が5類になって初めてのお正月となりましたが、有意義な時間を過ごすことができましたでしょうか？世間ではコロナ前の生活スタイルに戻りつつあるものの、まだまだ油断の出来ない日々が続いておりますが、今年一年、皆様、ご家族様にとって良い年でありますようお祈り申し上げます。

私とクローバー子供図書館との出会いは、今から32年ほど前になります。当時は国道49号線沿いにあり木造の建物でした。私は市内の高等学校を卒業し、クローバー子供図書館の向かいにあったガゾリンスタンドに入社することとなり、毎年冬になると図書館に灯油の配達でよくお邪魔しておりました。いつもたくさんの子供たちで賑わっていて、本を読んでいる子もいれば友達と遊んでいる子もおり、楽しそうな雰囲気、図書館であったような記憶があります。そんな私が、15年ほど前に針生ヶ丘病院に入職して、今回クローバーつうしんの原稿を書くことになり、何とも不思議な縁を感じています。私は恥ずかしながら本との携わりが殆どありませんでしたが、7歳になる娘がおりまして、本が好きになり、7歳になる娘がおりまして、本が読みたいから私自身もはまってしまい最終的にはシリーズの殆どを購入しました。その他「わた

しのワンピース」、「おおきなかぶ」など、娘との関わりの中で、たくさんさんの絵本と携わることができました。娘が小さい頃は、「もう1回、もう1回」と何度も同じ絵本を読むことをお願いされ、仕事や家事の疲れで辛い時もありましたが、絵本を通じて色々な言葉や考え、想像力などが自然と身につけて行く娘に、絵本の素晴らしさを感じました。寝る前の読み聞かせでは、娘が成長するにつれて、いつの間にか私の方が先に寝落ちする日が多くなり、「今日は寝ないでよ!!!」と言われることもありました。

今では自分で本を読めるようになりましたが、昨年あたりから「ヨシタケシンスケ」の絵本にはまっています。「りゅうがいます」、「ふまんがあります」、「最近では、「あんなにあんなに」、「みえるとかみえないとか」など、日常の出来事をユーマアたつぷりに描かれていることに興味を持つたようでクスクスと笑いながら読んでいます。小学1年生ともなると自分でできることが増え、親としては嬉しい反面、寂しい気持ちもあります。絵本を通して共有した「娘との時間」を大切に、これからも本を通じて関わりを深めて行けたらと思っています。

昨年9月には孫が生まれ、私もおじいちゃんになりました。まだ4ヶ月ですが、娘の幼少期を思い出しながら、孫にもたくさんさんの絵本を読んであげたいと思っています。



「あんなにあんなに」  
ヨシタケシンスケ  
(ポプラ社)



「みえるとかみえないとか」  
ヨシタケシンスケ/さく  
伊藤亜紗そうだん (アリス館)

